



三光 株式会社

創 業 昭和47 (1972) 年9月
代表者 代表取締役社長 三輪 昌輝
社員数 343名 (男270名 女73名)
本 社 鳥取県境港市昭和町5-17

事業内容

総合環境事業 (産業廃棄物収集運搬、中間処理)

勤務地 (採用エリア)

境港市、倉吉市、鳥取市、
松江市、出雲市、浜田市

採用区分

新卒採用 キャリア採用

インターンシップ・キャリア

有 詳細や申込受け付けは、公式サイト
の「採用情報」から。

採用担当者からあなたへ

山陰地方最大規模のプラント施設を複数保有し、廃棄物処理業をメインとした、総合環境事業を行っている会社です。三光は現在、新規設備導入など業務拡大のため、楽しく、真面目に、一所懸命に働いていただける仲間を探しています。ぜひ、一緒に働いてみませんか？



人事課
杉山 あすかさん

採用に関するお問い合わせ先

0859-44-5367

公式サイトは
こちら



Instagramは
こちら



社員が成長を実感できる職場へ

“面白そうな会社だなあ”から13年目 子育てと両立しながらキャリアアップ中

手代木さんが、初めて《三光》の名を知ったのは、大学生の就活の頃。環境問題に強い関心はなかったが、廃棄物処理にこだわる工場施設を「面白そうだ」と感じたことが、入社のかきかけだった。新卒入社後は営業に配属され、三光の環境事業を広く知らせたとい、建築工務店を中心に新規・スポット客を担当。その後、営業事務、江島工場の事務を経て、2024年2月から本社総務課へ異動。廃棄物処理の流れを依頼者と三光で共有するマニフェスト (管理票) を処理管理するチームの全体管理、そして健康経営活動の推進、社員研修の企画など、幅広い業務を担当している。

2015年の第1子出産を機に、現在4児の母親でもある手代木さん。この間、産休、育休、時短勤務を活用しながら、仕事のキャリアを築いてきた。一方で、後輩社員のためにも子育て支援制度の充実を目指し、江島工場時代に上司にプレゼンし、提案を聞き入れてもらった。三光では育児短時間勤務が、子どもの小学校卒業まで使える。「仕事と家庭を、より両立しやすい環境を整えたい」



本社総務課
手代木 優起さん (35)
2012年4月入社



先進技術が集まる工場施設で 新しいチャレンジができる

境港市に位置する潮見コンビナートは、処理の難しい特別管理産業廃棄物を含み、汚泥、廃油から廃プラスチック類、ガラス・金属くず、煤塵など、様々な廃棄物に対応する山陰最大級の焼却処理工場と、有機系廃棄物のリサイクル工場、最新の焼却発電施設が集まる。

3施設にわたり工場内作業スタッフとして働く戸谷さんは、石材施工の仕事から転職した。「工場で働きたいとは思っていましたが、未知の世界。でも、上司や先輩方が温かく迎えてくれたのと、入社時期は違っても同年代の社員と出会い、職場にすぐ馴染むことができました」と話す。入社後は、3日間の本社研修を経て潮見工場へ。工場に持ち込まれた廃棄物の荷受けや分別、車両の誘導など、焼却に伴う前処理業務を担当している。「廃棄物の運搬にはフォークリフトやユンボなど重機を操作します。前職で玉掛け資格は持っていましたが、業務に必要な資格取得を会社が全面支援してくれるので心強い。どんどん新しいチャレンジをしたいと思います」



潮見コンビナート 前処理グループ
戸谷 愛斗さん (28)
2024年2月入社



1 企業理念にも含まれる「楽しく、真面目に、一所懸命」を体現する三輪昌輝社長 (左から2人目) と社員の皆さん 2 3 弓ヶ浜半島の最北端に位置する潮見コンビナート10号炉は、高い焼却処理能力と発電機能を誇り、災害に強い 4 境港市内の公園および公共施設の芝生化事業に寄与している

58

LEADING COMPANY

三光 株式会社

● 廃棄物処理業

楽しく真面目に一所懸命 地域の課題を解決できる企業に

廃棄物を資源やエネルギーとして再生する《三光株式会社》。2024年、境港市潮見町に発電機能を備えた新焼却炉が稼働し、隣接する工場を含めた3施設の電力の自給自足が可能となった。

自然災害や緊急事態に備え
新たな焼却発電施設が稼働

事業活動や人の生活から生まれるゴミ (廃棄物) を、高度な技術でクリーンに処理して、環境に還す。《三光株式会社》は、多様な廃棄物に対応する4工場を松江と境港に保有し、全国から収集運搬した廃棄物の中間処理、さらに廃棄物をリサイクルした固形燃料やバイオマス燃料、肥料等の製造までをワンストップ

「これまで廃棄物の適正な処理を通し、地域に欠かせない企業であり続けたいと活動してきましたが、これからは地域の課題を解決する企業を目指し、チャレンジを続けていきます」と三輪昌輝社長。その取り組みの一つが、高効率の発電機能を備えた焼却炉の新設だ。2024年8月から本格稼働している潮見コンビナート10号炉は、廃棄物の焼却時に発生したエネルギーを利用して発電を行うため、外部からの電力供給がストップした時でも運転し続ける。そのため、災害などの緊急事態が発生した際も、廃棄物の受け入れや避難所への電力供給が可能となった。25年1月には、境港市、サッカーJ3ガイナーレ鳥取を運営するSC鳥取と連携し、市内の公園や施設などを芝生化する事業がスタート。これは、昭和工場が製造するバイオマス燃料に由来する有機肥料を活用し、SC鳥取が芝生の栽培から維持管理までを行うものだ。すでに旧誠道小学校跡地のグラウンド、誠道町の公園で芝生の敷設が進んでおり、今後も市内の公園・施設の芝生化に取り組んでいく。地域とともに歩む三光の取り組みは、持続可能な社会へ向けた確かな一歩である。